氏名（　　）

神戸新聞 2020年02月25日 火曜日 面名 経済 １３ 7ページ

在庫減へシステム販売

業界課題にどう向き合う

ワールド社長 上山 健二氏

2018年の株式再上場以来、企業買収やデジタル投資を進めるアパレル大手のワールド（神戸市中央区）。社長の上山健二氏(54)は「持続可能な社会の実現への貢献」を掲げており、ファッション産業が抱える課題の解決にも意欲を燃やす。（中務庸子）

―在庫の廃棄など、業界課題にどう向き合う。

「売れ行きを見て、仕入れや値下げを最適化する自社開発システムの効果が出てきた。ショッピングセンター（SC）向け商品の在庫率は18年上期の2桁台から19年上期は1桁まで減った。システムは他社にも販売している。また、各社の在庫品を集めて値引き販売するオフプライスストアを昨年、埼玉で開業。業界全体の供給過剰是正と、在庫削減につなげたい」

―デジタル技術の革新も課題解決につながる。

「スマートフォンで撮影した写真から、その人のサイズを測る画像計測の技術を持つ米企業に出資しており、近く自社の電子商取引（EC）サイトに搭載する。将来的には、顧客の要望に即した商品の生産が進むことで廃棄を低減できるだろう。サイズの幅が大きく、在庫を抱えやすい靴でも展開する方針だ」

―素材面での環境配慮は。

「百貨店向けに有機栽培の綿の製品などを既に販売するが、SC向けでも染色に使う水を通常より99%削減したデニムや、再生素材を使ったダウンジャケットなどが広がりつつある」

―ほかには？

「18年に関東地方で、他社と始めた商業施設への共同配送は、二酸化炭素排出量の削減につながる。ファッション業界は売上総利益率が高く、他産業に比べ、効率化が進んでこなかった。だが、今後はそうはいかない。持続可能な社会のために業界全体で取り組めることはまだまだあるはずだ」

この人に聞く

かみやま・けんじ 東大経済学部卒。88年住友銀行入行。長崎屋社長などを経て、13年ワールド。15年4月から現職。尼崎市出身。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① 見出しに「在庫減へシステム販売」とあります。それはどんなことができるシステムですか。

（　　）

② 埼玉で開業させた、各社の在庫品を集めて値引き販売する店を何と言ってますか。

③ 「デジタル技術の革新も課題解決につながる」とありますが、同社が米企業に出資しているのはどのような技術ですか。

（　　）

④ 素材面での環境配慮を3つあげましょう。

（　　）

（　　）

（　　）